住宅の防カビ対策にエアコンクリーニングは有効

大手ゼネコン、自動車メーカー担当者らに講演

当社の環境微生物研究室の橋本一浩主任研究員は、路線バスや住宅でのカビ汚染の実態について、8 月 7 日に講演を行いました。同講演は、室内環境学会・車室内分科会主催のセミナー「快適空間の未来を拓く！健康と快適性を追求する次世代空間デザイン」のプログラムの一環として行われたもので、参加した大手ゼネコン、自動車、総合電機メーカーなどの担当者らは熱心に聞き入っていました。

橋本は、以前から住宅や車室内などの閉鎖空間でカビの繁殖する原因が、結露や室温の上昇といった点にあるとし、「湿度」を常に考慮することが重要であると説いていました。今回の講演では、路線バスや一般住宅のエアコン内部のカビ汚染の実態調査を基に”空気質”と湿度の関係について解説しました。

住宅のエアコンのカビ汚染では、調査した 9 軒中 8 軒でカビ汚染が確認され、エアコンを使用することでカビの胞子が部屋中に飛散することを示しました。また、路線バスについては調査した 4 台のうち 2 台でカビ汚染が確認されました(汚染が未確認の 2 台は比較的新しい車両だった)。

こうした検証結果から、室内でのカビ対策には、湿度と共に室内の空気の質にも注意を払う必要があるとし、住宅用エアコンは内部を洗浄することが必要との見解を示しました。一方で、路線バスに関してはドアの開け閉めなどで定期的に空気が循環することで、住宅と比べて浮遊カビが少ないとしました。

室内環境学会は、1994 年に室内環境に関心のある学会や産業界の研究者、実務者の意見交換の場「室内環境研究会」として発足しました。98 年に現在の名称に変更し、2013 年 5 月には一般社団法人として認可され、2024 年に 30 周年を迎えました。今後、さらなる発展を目指し、さまざまな角度から室内環境の問題の解決に取り組むとしています。

橋本主任研究員は、真菌(カビ)の生態や制御方法を研究する傍ら、15 年近くに渡る一般家庭へのフィールドワークを通じ、住宅内のカビの発生要因とその対処法を実証し、多くの論文を発表してきました。そうした地道な研究活動は各種学会から高い評価を得ています。

当社の環境微生物研究室では、美術館や博物館の収蔵品のカビによる劣化の調査・分析や劣化防止のためのコンサルティング等を通じ、文化財保護活動に微力を尽くしています。今後も『生活者が安心できる未来の実現をめざす』理念のもと、引き続き公共の利益に資する研究・サービス開発に努めてまいります。

橋本一浩　　(株)エフシージー総合研究所 環境微生物研究室　主任研究員（博士(学術)）

2009 年当社入社。真菌学、環境微生物学、微生物制御学、微生物生態学、衛生動物学が専門。主な受賞歴に、日本防菌防黴学会 2023 年度 研究奨励賞、都市有害生物管理学会 2018 年 森八郎記念賞、日本防菌防黴学会 2015 年度 論文賞などがある。